事務事業評価シート（平成22年度）　（ソフト事業）

（A面）

担当課	課長名	記入者
こども未来 課	越川昌信	吉田智司

1　事務事業の概要　＜Plan①＞

事務事業名	新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
スクールバス運行事業	新規 / ○継続	年度 / ○H20以前	年度 / ○未定

事務事業の体系

計画掲載	多可町総合計画	（章）2 笑顔でつつむ、あったかいまち	（節）1 のびのび育とう、育てよう
		（基本計画）学校教育の充実	
	個別計画		

根拠法令・条例・要綱等	事業区分（該当する区分に「○」）			
多可町スクールバス管理運営規程		ソフト事業		施設の維持管理
		義務的事業		内部管理事務
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	○	計画などの策定

各学校等よりの使用申請を取りまとめ、スクールバスの適正な運行、管理を行う。	補助金の支給		有	○無
	委託 ○	全部委託		一部委託
		委託なし（全部直営）		

2　事務事業の目的　＜Plan②＞

対象（働きかける相手・誰が・もの）	受益者（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
児童生徒等	児童生徒等	スクールバスの適正な運行・管理を行う。

3　事務事業にかかる予算細目　＜Plan③＞

会計名：一般　会計

細目名	教育指導事業				細目名					細目名				
予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業
	10	1	3	1										

4　事務事業実施にかかるコスト　＜Do①＞

事務事業・人員			単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23　年度 計画	備　考（全体事業費など）
総コスト			千円	3,543	3,781		H23年度より総務課へ
コストの内訳	直接事業費		千円	3,304	3,500		
	所属内間接費		千円				
	人件費		千円	239	281		
	投入人員	正職員	人/年	0.03	0.03		
		嘱託員	人/年				
財源内訳	国・県支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他特定財源		千円				
	一般財源		千円	3,543	3,781		

5　事務事業の手段＜Plan④＞と活動指標　＜Do②＞

	事務事業を構成する業務	手段（事務事業整理シートより）	活動指標（手段の数値化）	単位	21年度 実績	22年度 見込	23年度 目標
1	バス会社と委託契約締結	委託契約による	入札による契約締結	千円	3,071	2,644	2,500
2	運行計画調整		2週間前までの調整	時期	2週間前	2週間前	2週間前
3	実績精算		精算額	千円	187	100	100
4							
5							

（ソフト事業）（B面）

事務事業名［　　スクールバス運行事業　　］

6　事務事業の実績　＜Do③＞

成果指標(意図の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 実績(見込)	23 年度 目標	備　考 (成果指標の考え方・計算方法)
効率的な運用	円／1回	27,306	23,809	26,000	使用費用／回数
契約内での走行距離	Km	10,418	12,985	13,000	年間走行距離

7　事務事業の事後評価　＜Check＞　（ソフト事業）

チェック項目			該当項目に「○」						担当の把握している課題
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	○	高い		高くない		把握なし	
		緊急性は		高い	○	高くない			
		利用者・対象者数は		増加		減少	○	横ばい	
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない		ある	○	把握なし	
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		ない	○	ある			
		国や県の事業(サービス)との重複は	○	ない		ある			
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○	ない		ある			
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○	ある			
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		ない		ある	○	把握なし	
	連携の可能性	他課で類似の事業は		ない	○	ある			
		他の事業と統合できる可能性は		ない	○	ある		あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない	○	ある		あるが困難	
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		ない	○	ある		あるが困難	
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○	ない		ある			
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		ｻｰﾋﾞｽ向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		受益者負担を見直す余地は		ない	○	ある			
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで		ある	○	ない			
		前年より成果が上がって		いる		いない	○	横ばい	
	持続の可能性	継続することによる効果は	○	高い		高くない			
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○	いる		いない		測定困難	
		事業の休・廃止による住民への影響は	○	大きい		大きくない			

市場化の可能性							
		既に全部委託済	○	更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	委託化は不可能
		市場化テストの導入について検討する余地がある				市場化テストの導入を検討する余地はない	

改善の可能性				
	○	1.改善の余地はない		2.改善の余地がややある
		3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要

事務事業評価書

８　改善提案と今後の改善の方向性　＜Action＞スクールバス運行事業

職場からの意見（担当者）
（課題の解決についての提案など） スクールバスの運行については、平成２３年度より総務課での管理となっており、こども未来課においては、経由事務として扱っている。

担当課長評価
（課長としてこの事業をどのようにしていきたいか） スクールバスが1台減となった。また、総務課所管となっておりこの事業評価から外すべきである。教育交流の充実を図り、特色ある学校づくりへの効果、有効性は大なるものがあるため、スクールバスの有効活用は今後とも図るべきである。

所管評価		1．重点的に継続		2．現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4．縮小を検討	
		5．統合・連携を検討		6．休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価		3

教育長評価
（教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか） スクールバスを有効に活用されたい。継続が必要である。

事業評価		1．重点的に継続	○	2．現状のまま継続		3.内容を見直しながら継続		4．縮小を検討	
		5．統合・連携を検討		6．休止・廃止を検討		7.終了・完了			

評価委員コメント
現状のまま継続されたい。